

目 次

「和歌山・農業・未来へ」	（吉本 均）	1
研究の成果	夜間冷房によるスターチスの増収技術	（島 浩二） 2
	電球型蛍光灯、LED電球による実エンドウの 開花促進効果	（川西孝秀） 3
トピックス	野菜花きの生育制御に係る光質の研究について	（楠 茂樹） 4
お知らせ	平成23年度人事異動	4



スターチスの夜間冷房



実エンドウの電照栽培

「和歌山・農業・未来へ」

農業試験場暖地園芸センター所長 吉本 均

このたびの東日本大震災により、被災されたみなさま、そのご家族の方々に心より  
お見舞い申し上げます。一日も早い復旧、復興を心よりお祈り申し上げます。

平成23年度は5月の末に早くも台風が本県に接近して、梅の果実落下などで大きな被害が発生しました。振り返れば、今年の夏は猛暑の日が続き、年明け1月には寒波が居座り、農作物の生産や市民生活に大きな影響ができました。

当センターでは、どんな年でも高品質な野菜や花が低コストで安定生産できる栽培技術の開発に力を入れています。また、様々な消費者ニーズと生産性を両立した野菜や花の育種や増殖技術の改善にも取り組んでいます。そして、消費者が信頼する「和歌山ブランド」づくりを支援していきます。

県の試験研究機関は、生産者のみなさんが困っているたくさんの緊急的な課題に取り組

んでいます。本県の有利性や産地のこれまでの財産を最大限に生かし、高い収益が得られる技術を開発することも業務です。また、高齢の方にも農作物を楽しく作り、地域で豊かな生活を送っていただくために、生産技術の改善も行っています。

大震災や自然災害をとおし、日本人の意識や価値観が「量や効率」から「質や生活環境」の重視に変わりつつあります。新品種の育成や技術開発は未来志向です。生産者の方々と県民のみなさんに喜んでもらえるように努力します。今後とも、地域からの貴重なご意見やご要望をいただくと共に、ご支援、ご協力をお願いします。